

第3学年国語科学習指導案

児童 2組 男子11名 女子12名 計23名
指導者 関 賢 一

- 1 単元名 進んで話し合い、発表しよう（光村図書 3年上 わかば）
教材名 「分類」ということ

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまで「話すこと・聞くこと」の学習において、2年生までに、事柄の順序を考えながら、身近な話題に興味をもって話したり聞いたりする活動をしてきた。また、3年生の前単元「じゅんじょが分かるように、話したり聞いたりしよう」では、相手に正確に伝わるように順序よく話したり、道案内で大切な言葉に注意しながら、順序に気を付けて聞いたりする活動をしてきた。

また現在、国語の学習以外では、朝の会でスピーチコーナーを設け、学級の友達の前でテーマに沿ってスピーチをするという活動を行っている。友達の前での発表、1対1のペアで話し手になったり聞き手になったりする学習などは経験してきたが、1対複数や、学級全体で話し合うという学習は、本単元が最初である。

この単元の目標に関わる「相手に分かるように筋道立てて話すこと」「互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合うこと」について、児童に事前の意識調査をしたところ、結果は次の通りであった。

質問項目	はい	どちらかというとはい	どちらかというといいえ	いいえ
①あなたは、みんなにお話するときに、大事なことは何か考えて話していますか。	27%	50%	23%	0%
②あなたは、みんなにお話するときに、お話のじゅんじょを考えて話していますか。	27%	45%	14%	14%
③あなたは、話し合いをするときに、自分の考えと友だちの考えをくらべながら、話し合おうとしていますか。	23%	41%	27%	9%
④あなたは、先生や友だちのお話を聞くときに、大事なことは何かを考えて聞いていますか。	22%	64%	5%	9%
⑤あなたは、みんなにお話するときに、声の大きさやはやさに気を付けて話していますか。	41%	36%	14%	9%

調査の結果から、大事なことや順序などを考えて、話したり聞いたりするという意識は多くの児童が持っているようである。この単元の学習では、分類の観点などをはっきり話したり、きちんと聞き取ったりすることが大切になってくるので、学習を通して大事なことや順序をより意識させながら進めたい。

一方で、自分の考えと友達の考えとを比べながら話し合うことに対する意識は、高いとは言えない。学級会などで話し合う経験はあるものの、国語の授業の中で話し合いの仕方を学習し、考えを比べながら話し合うことは、本単元で初めて扱う学習内容であることも、意識が高くない理由の1つだと考えられる。

これらのことから今回の学習では、話し合いの仕方を学ぶにあたって、まず相手に自分の考えが伝わるように筋道立てて話すことや、聞きやすい話し方をすること、話を聞くときには、分類の観点に気を付けてしっかり聞き、聞き取ったかどうか相手に伝えること等を学習し、互いの考えを交流し比べ合うことから話し合うことへとつなげていきたい。

(2) 教材について～5 学習指導計画 (P 14～16 参照)

6 本時の指導 (3 / 15)

(1) ねらい

- ・友達の分類との相違点や共通点を考えながら聞き、自分の分類の仕方や聞き取ったことを話すことができる。

(2) 本時の展開

□□□□ は、かかわり合いの場

過程	学習活動	教師の働きかけ
つかむ 6分	1 前時の学習内容を想起する。 2 学習課題と解決の方法を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ねこの分類のしかたを友達と比べ合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で書いてきた「分類作文」(家の中にあるものを分類して、前時に学習した話型で文章に表す。)を数人分紹介し、前時想起させる。「分類」の観点を確認し、本時の学習に活かせるようにする。
かかわり合う 31分	3 学習課題を解決する。 (1) 比べ合うときに大事なことを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを話すだけでなく友達の考えを聞いて自分との相違点や共通点を見つけたりして、互いの考えを分かり合う。 ・比べ合いにつなげるための話型(対話)のモデルを確認する。(復唱→自分の考え) (2) ペアで比べ合いをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> ・学習形態は2人のペア。「分類」プリントを使いながら、1人が自分の考えを発表したら、次の児童は自分の前に発表した児童と同じ考えか違う考えかを話してから、自分の考えを発表するようにさせる。ペアの組み合わせを変えて数回練習する。 </div> (3) 代表ペアの発表を聞き、上手なところを確認する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 前時の話型 「わたしは、〇〇を手がかりにしました。分け方は〇つです。〇〇と〇〇(と〇〇)です。」 「□□さんは、〇〇を手がかりにして、〇〇と〇〇(と〇〇)の〇つに分けたんですね。」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の話型から、「比べ合い」につなげるための話し方(対話の仕方)に気付かせていく。(モデルとなる話型を示す) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> 〈同じことで分類した場合〉 「ぼく／わたしは、□□さんと同じで、〇〇を手がかりに〇〇と〇〇(と〇〇)の〇つに分けました。」 「ぼく／わたしは、□□さんと同じで、〇〇を手がかりにしましたが、〇〇と〇〇(と〇〇)の〇つに分けました。」 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> 〈違うことで分類した場合〉 「ぼく／わたしは、□□さんと違って、△△を手がかりにして、△△と△△の〇つに分けました。」 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・黒板に掲示した話型を活用させ、話し方、聞き方のポイントをしっかり理解させて進めたい。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 評価規準 A：聞き手を見ながら、相手の考えとの相違点や共通点を話したり、感想を述べたりしている。 B：相手の考えとの相違点や共通点を話している。 (C児への手立て) 前時と本時の掲示用の話型モデルを見せながら、話す練習をさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手との相違点や共通点に気を付けて聞き、それを話してから自分の分類について話すようにさせる。
みとめ合う 8分	4 本時の学習をまとめる。 (1) 自己評価をする。 (2) 感想を発表する。 5 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシートに記入させる。感想には、本時の学習を通して「上手くできたこと／上手くできなかったこと」「比べ合ってたかったこと」等について書くように、観点を知らせる。 ・次時はペアでどんな分類の仕方があったかをまとめ、比べ合いをふりかえることを知らせる。